ごみの分別・減量にご協力をお願いします

ごみを焼却すると、温室効果ガスである二酸化炭素が発生します。
本市は、2050年までに二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言し、温暖化防止のためさまざまな取り組みを進めています。「ごみの分別を徹底する」「物を使い切る」など、ごみの減量に関する取り組みにご協力をお願いします。

問い合わせ　環境課　日野剛久　☎㊿2609

牧之原市のごみの排出状況

牧之原市の1年間のごみ排出量は、14,369トン（榛原地区=7,426トン、相良地区=6,943トン）です。
＊市民1人当たりに換算すると、1年間の排出量は314キログラム、処理費用は15,752円です。

ごみ処理を行う組合	吉田町牧之原市広域施設組合		牧之原市御前崎市広域施設組合	
組合構成市町	吉田町	牧之原市（榛原地区）	牧之原市（相良地区）	御前崎市
総排出量	9,593トン	7,426トン	6,943トン	11,019トン
1人1日当たりの排出量	886グラム	869グラム	847グラム	930グラム
リサイクル率	20.2%	20.3%	31.2%	30.0%

出典：令和元年度　一般廃棄物処理事業実態調査

「4R」でごみを減らしましょう

市では、ごみを減らすために次の4つの「R」を皆さまにお願いしています。できることから実践しましょう。

Reduce（リデュース）＝減らす
ごみそのものを減らす
- 物を使い切る
- 詰め替え商品の利用
- 賞味期限切れなどによる食品の無駄の防止

Recycle（リサイクル）＝再資源化
ごみを資源に変え再利用
- ごみカレンダーを見て分別
- 地域の資源回収の利用
- 市役所の廃食油回収の利用

Reuse（リユース）＝再利用する
繰り返し使う
- まだ使えるものは人に譲る
- 市役所の衣類回収の利用
- 使い捨てではなく、何度も使える商品を選ぶ

Refuse（リフューズ）＝断る
不要なものは断る
- マイバッグを持参し、レジ袋は断る
- 過剰な包装は断る
- 不要なものはもらわない

守ってほしい「ごみ出し7箇条」

01 決められた日に決められたごみを
ごみステーションは、ごみ置き場ではありません。決められた日に、決められたごみを出しましょう。

02 午前8時までにごみステーションへ
ごみステーションへのごみの持ち込みは、収集日当日の朝（午前8時）までに行ってください。午前8時以降に出されたごみは回収できません。

03 ごみは決められた場所へ
ごみステーションを新たに設置する場合は、市役所（環境課）へ届出が必要です。届出のない場所に置かれたごみは回収できません。

04 ごみ袋は必ず縛る
回収する際にごみが散乱する可能性があります。ごみ袋は必ずしっかりと縛りましょう。

05 金属や金具がついていれば「金物類」
おもちゃなど金属や金具がついているものは、「プラスチック類」ではなく「金物類」で出しましょう。

06 乾電池とライター
乾電池は回収協力店（電気店など）や公共施設にある回収ボックスへ、ライターはガス抜きして金物類へ出しましょう。

07 会社や商店は直接搬入か許可業者に依頼
会社や商店から出たごみは、ごみステーションには出せません。ごみ処理施設に直接搬入するか、市の許可を受けている業者に回収を依頼してください。

のら猫問題でお悩みの皆さんへ
ご存じですか？

地域猫活動

「庭にふんや尿をされて困る」「鳴き声がうるさい」「家の軒下で子猫が生まれている」など、のら猫の増加により多くの問題が生じています。
これらを解決するための有効な方法の一つである「地域猫活動」について紹介します。

問い合わせ　環境課　太田侑甫　☎㊿2609

地域猫活動とは

＊市役所・保健所では猫の保護・駆除・処分は行いません。

のら猫問題が生じている地域の住民が主体となり、のら猫に不妊・去勢手術を施して元の地域に戻し、トイレの設置や清掃を行い、餌やりの時間などを管理しながら、地域全体で猫の一代限りの命を見守り、猫の生息数を減らしていく活動です。
目的は、**「猫に関するトラブルを少なくすること」「数年かけてのら猫をなくすこと」**です。
この活動は「TNR活動」ともいわれ、全国で広まりつつあります。

この活動は
「猫が嫌いな人も、好きな人も、猫も、仲良く暮らせる社会」
の実現につながります。

のら猫への餌やりは厳禁です

「可愛い」「かわいそう」という気持ちだけで餌やりをしてはいけません。

餌をあげる人の3大責任
1. 不妊去勢手術をする
2. 餌は片付けて掃除する（やりっぱなし禁止！）
3. ふん尿のお世話をする

猫は放っておくと、ねずみ算式にどんどん増えます。年に2～3回出産し、1回の出産で約5匹の子猫を産む上、生後半年ごろから出産可能になります。
つまり、1匹のメス猫から、1年間に50～70匹に増える可能性があるのです。

耳にV字の切込みが入った「地域猫」。
その耳の形から「さくら猫」とも呼ばれる。

不妊・去勢手術費用を助成します

市では、のら猫の不妊・去勢手術を実施した人に対し、費用の一部を助成します。

▶メス猫＝上限1万円▶オス猫＝上限5千円

＊市が実施する「猫の適正管理講習会」を受講した人が対象で、事前申請が必要。
＊術後に猫の耳にV字の切込みを入れること。
＊飼い猫には適用されません。